



普通高等教育“十一五”国家级规划教材

日语 泛读

全国高校日语

4

专业八级考试对策

RJYU

成春有◎主编

FANDU

中国科学技术大学出版社



普通高等教育“十一五”国家级规划教材

日语 泛读

成春有 主编 武 锐 金锦珠 副主编

全国高校日语

4

专业八级考试对策

王鹏飞 胡志强 张宝红
编著者

中国科学技术大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

日语泛读. 4/成春有主编. —合肥:中国科学技术大学出版社, 2011. 2
ISBN 978-7-312-02759-8

I. 日… II. 成… III. 日语—阅读教学—高等学校—教材 IV. H369.4

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2010)第 237358 号

出版 中国科学技术大学出版社
安徽省合肥市金寨路 96 号(230026)
<http://press.ustc.edu.cn>
印刷 安徽省瑞隆印务有限公司
发行 中国科学技术大学出版社
经销 全国新华书店
开本 710 mm×960 mm 1/16
印张 13
字数 253 千
版次 2011 年 2 月第 1 版
印次 2011 年 2 月第 1 次印刷
印数 1—2000 册
定价 26.00

目 次

第 1 課

- 文章(一) 科学者と芸術家との追求 1
- 文章(二) 話し手側の視点から見る 2

第 2 課

- 文章(一) 携帯電話 8
- 文章(二) 旅に出る日 10

第 3 課

- 文章(一) 苦勞からの恨み 17
- 文章(二) 文化が人間の資質を作る 19

第 4 課

- 文章(一) 仕事の音 25
- 文章(二) 行為の価値 26

第 5 課

- 文章(一) 完璧な注意 33
- 文章(二) ストレッサーへの反応 35

第 6 課

- 文章(一) 教育の目的 41
- 文章(二) 友達 43

第 7 課

- 文章(一) 日記 49
- 文章(二) よりよい生活 51

第 8 課

- 文章(一) 舞踊の起源説 57
- 文章(二) 日本人性格の一面 59

第9課

文章(一) ゆとり 63

文章(二) レジャー 65

◆中間テスト 70

第10課

文章(一) 生態学 76

文章(二) 日本の自然 78

第11課

文章(一) 服装 85

文章(二) 安全指導 87

第12課

文章(一) 詩人の言葉から 93

文章(二) 人生の選択 95

第13課

文章(一) ボランティア活動 101

文章(二) アジアとの出会い 103

第14課

文章(一) 文化のアイデンティティ 108

文章(二) 読書 110

第15課

文章(一) 自然保護 116

文章(二) スポーツに打ち込む若い人へ 117

第16課

文章(一) デモクラティズ 123

文章(二) エビガニ 124

第17課

文章(一) 立つ人間 131

文章(二) 日本人の住まい 132

第18課

文章(一) 羞恥 139

文章(二) 貨幣	141
◆期末テスト	146
参考译文	152
参考答案	192

第 1 課

文章(一) 科学者と芸術家との追求

芸術家にして科学を理解し愛好する人もいないではない。また科学者で芸術を鑑賞し享樂する者も随分ある。しかし芸術家の中には科学に対して無頓着であるか、あるいは場合によっては一種の反感を抱くものさえあるように見える。また多くの科学者の中には芸術に対して冷淡であるが、あるいはむしろ嫌忌の念を抱いているかのように見える人もある。場合によっては芸術を愛することが科学者としての墮落であり、また恥辱であるように考えている人もあり、あるいは文芸という言葉から直ぐに不道德を連想する潔癖家さえまれにはあるように思われる。

科学者の天地と芸術家の世界とはそれほど相容れぬものであろうか、これは自分の年来の疑問である。

夏目漱石先生がかつて科学者と芸術家とは、その職業と嗜好を完全に一致させ得るという点において共通なものであるという意味の講演をされたことがあると記憶している。もちろん芸術家も時として衣食のせいに働けねばならぬと同様に、科学者もまた時として同様な目的のために自分の嗜好に反した仕事に骨を折らなければならぬことがある。しかしそのような場合にでも、その仕事の中に自分の天与の嗜好に逢着して、いつのまにかそれが仕事であることを忘れ、無我の境に入り得る機会の少なくないようである。況や衣食に窮せず、仕事に追われぬ芸術家と科学者が、それぞれの制作と研究とに没頭しているときの特殊な心的状態は、その間に何等かの区別をも見出しがたいように思われる。しかしそれだけのことならば、あるいは芸術家と科学者のみに限らぬかもしれない。天性の猟師が獲物を狙っている瞬間に経験する機微な享樂も、樵夫が大木を倒すときに味わう一種の本能満足も、これと類似の点がないとはいわれ

ない。

しかし科学者と芸術家の生命とするところは創作である。他人の芸術の模倣は自分の芸術でないと同様に、他人の研究を繰り返すのみでは科学者の研究ではない。勿論両者の取り扱う対象の内容には、それは比較にならぬほどの差別はあるが、そこにまたかなり共有な点がないでもない。科学者の研究の目的物は自然現象であってその中に何らかの未知の事実を発見し、未発の新見解を見出そうとするのである。芸術家の使命は多様であろうが、その中には広い意味における天然の事象に対する見方とその表現の方法において、何らかの新しいものを求めようとするのは疑いもないことである。また科学者がこのような新しい事実に逢着した場合に、その事実の実用的価値には全然無頓着に、その事実の奥底に徹底するまでこれを突き止めようとすると同様に、少なくとも純真なる芸術家がひとつの新しい観察創見に出逢った場合には、その実用的な価値などには顧慮することなしに、その深刻なる描写表現を試みるであろう。古来多くの科学者がこのために迫害や愚弄の焦点となったと同様に、芸術家がそのために悲惨な境界に沈淪せぬまでも、世間の反感を買った例は少なくあるまい。このような科学者と芸術家とが相逢うて肝胆相照らすべき機会があったら、二人はおそらく会心の握手を交わすに躊躇しないであろう。二人の目差すところは同一な真の半面である。

文章(二) 話し手側の視点から見ると

日常何気なく使っている言葉と言うものをさて文法規則で解釈しようと、なかなか思うようには行かないものである。

たとえば、朝出かけようとして、時計を見て「あ、もう時間だ!」と叫んだとしよう。一体この「もう時間だ!」は文の構成から見て、どのように説明したらよいのだろうか。

主語は何か? 「あ、もう(今は)時間だ」と解釈したら、「今」が「時間」と言う言葉になって意味を成さない、かといって「何が……」に当たる言葉をあれこれと考えても、ぴったり当てはまる適当な語が見当らない。

大体、ここで言う「時間」は「時間と空間」とか「時間がたつ」のような抽象的な「時の流れ」を言うのではなく、あくまで当人にとっての「出発の時刻」を意味し

ているに過ぎない。これは司会者が講師に「先生、お時間です」と告げ、講師が話しが終わりに「ちょうど時間になりました」と述べる、あの「時間」の使い方と同じで具体的な話の場面の中で、話者にとって特別の意味を持った「時点」を指示する働きであると言ってもよい。この点が「時間」と「時」の違いであるが、面白いことに、これらの文がいずれも特定の主語を想定することの難しい「無主語」文であるということで、これは話者がそのとき、心に感じた、ただそれだけの事柄として、「ああ、時間だ」と端的に述べた文だからであろう。

そのために、使用語彙も談話の場面と連動して、はなはだ具体的な個別的な意味となり、決して辞書にあるような無味乾燥な抽象的の意味内容とはなっていないのである。私たちが使う日本語、特に話し言葉にはこのような、その折々に心に感じ、目に映った事柄を、「外の世界に対する私側の視点」で表す言い方が極めて多い。

「鍵がかかっている!」「雨が降ったら涼しくなった。」「合格できて嬉しい!」。

と臨場感に溢れる表現ができるのも様態的な事象として解説する態度ではなく、その事象から受ける自己側の主観として把握する表現姿勢ゆえであろう。「鍵がかかっている」のような現象文による表現、「涼しくなった」と自己側の確実的態度を表す「た」の使用、「うれしい」と感情形容詞を用いて素直に自己の心を表明し、決して、「合格を喜ぶ」のような、動詞による第三者側の状態としてことを解説的に示すような態度はとらないのである。

以上の例からも分かるように、日本語は話し手が事項を取り巻く周囲の対象や場面に対峙して、そこから受ける状況として文を作り、語義を定めていく性格が極めて強い。外の世界を受け止める「話し手側の視点」を中心とした発想と言い換えてもよい。

従って、日本語の表現や文法、語彙、意味の特徴を考えるときにはこの点を心に入れて観察していく必要があるし、文法は文法、意味は意味として切り離して考えず、表現も文法も語彙も意味も互いに関係しあう「同じ幹から生まれた枝」として同時に眺めていく態度に徹することが肝心なのである。

(「話し手側の視点から見る」による)

単語

(一)

無頓着(むとんちゃく)

(名・形動)

不经心、不在意

嫌忌(けんき)	(名・他サ)	讨厌、忌讳
潔癖家(けっぺきか)	(名)	洁癖者
相容れぬ(あいはいれぬ)	(词组)	不相容
嗜好(しこう)	(名・他サ)	嗜好
況や(いわんや)	(副)	更何况
窮する(きゅうする)	(自サ)	窘困
猟師(りょうし)	(名)	猎人
機微(きび)	(名)	微妙、些微之处
享楽(きょうらく)	(名・他サ)	享受
樵夫(しょうふ)	(名)	樵夫
逢着(ほうちゃく)	(名・自サ)	碰到、遇到
突き止める(つきとめる)	(他下一)	追究、探究
目差す(めざす)	(他五)	以……为目标

(二)

何気無い(なにげない)	(形)	不形于色、假装没事、坦然自若
無味乾燥(むみかんそう)	(名)	枯燥无味、无趣
臨場感(りんじょうかん)	(名)	临场之感
対峙(たいじ)	(名・自サ)	对峙、对抗

練習

一、次の漢字に適当な読み方をつけなさい。

鑑賞()	享楽()	類似()
冷淡()	墮落()	恥辱()
嫌忌()	潔癖()	嗜好()
逢着()	無我()	猟師()
対峙()	沈淪()	臨場感()

二、次の片仮名を適当な漢字に変えなさい。

- | | |
|----------------|----------------|
| ① キビな享楽() | ② 一種のホンノウ満足() |
| ③ 事実をハッケンする() | ④ チュウチョしない() |

- ⑤ シンコクなる描写() ⑥ カンタン相照らす()
 ⑦ カイシンの握手を交わす() ⑧ ヒサンな境界()
 ⑨ セケンの反感を買った() ⑩ ジュンシンなる芸術家()

三、文章(一)を読んで次の問いに答えなさい。

問1:「世間の反感を買う」の「買う」の意味として、次の中から一つ選びなさい。

- ① 品物や金とひきかえに、自分の望みの品物を得る
 ② 悪い結果を招く
 ③ 進んで身に引き受ける
 ④ 価値を認める、尊重する

問2:「肝胆相照らす」とはどういう意味か。

- ① 簡単に相互の罪を告白しあって和合する
 ② 邯鄲の夢を同時に見て互いに照合し意見が一致する
 ③ 感嘆の声を発して互いに顔を照らしあい意気投合する
 ④ 肝臓と胆嚢とが照らしあうように心に隠すところなく交わる

問3:本文の内容に合致しないものを次の中から一つ選びなさい。

- ① 芸術家なのに科学を理解し愛好する人がいないではない
 ② 研究に没頭している科学家の心理状態は樵夫が大樹を倒す時に味わう一種の本能満足と類似の点がある
 ③ 作品の創造に没頭している芸術家の心理状態は天性の猟師が獲物をねらっている瞬間に経験する機微な享楽と類似の点がある
 ④ 科学家の天地と芸術家の世界とはぜんぜん相容れぬものである

四、文章(二)を読んで次の問いに答えなさい。

問1:次の中から「時間」の意味がほかの三つと違うものを選びなさい。

- ① 授業の時間に遅れないように目覚し時計を使っている
 ② どの国でも時間を守ることは社会人としての基本だ
 ③ 忙しくて食事をする時間もない
 ④ 約束の時間に必ず来てくれ

問2:文章の中に出た例文を正しく理解していないのは次のどれですか。

- ① 「先生、お時間です」とは講師が発言する番が来たという意味です

- ②「ちょうど時間になりました」とは講師が話しを終わる予定の時間になったと言う意味です
- ③「雨が降ったら涼しくなった」とは雨が降れば涼しくなると言う意味です
- ④「合格できて嬉しいです」話し手が合格できて嬉しく感じたと言う意味です

問3:文章の内容とあっているのはどれですか。

- ①「あ、もう時間だ!」のような普段よく使う言葉はじつは意味が曖昧で、なかなか理解しにくいのです
- ②「あ、もう時間だ!」のような文が理解しにくいのは主語が欠けているからです
- ③「鍵がかかっている!」「雨が降ったら涼しくなった」のような臨場感に溢れる表現ができたのは「話して側の視点」を中心とした発想があるからです
- ④ 日本語の表現や文法、語彙、意味の特徴を考えるとときには、「話して側の視点」を中心とした発想を心に入れて別々に観察するべきです

阅读技巧

日语专业八级考试简介

日语专业八级水平考试是国家教育部为贯彻《高等院校日语专业高年级阶段教学大纲》而举办的一项高水平日语考试,主要面向全国高校日语专业的学生,它是迄今为止日语学科最具权威性的一项考试。由于日语专业八级考试比日本财团法人日本国际教育协会、日本国际交流基金主办的日本語能力一级考试更能客观公正地评定中国学生的日语实际水平,因此受到了考生和各用人单位的广泛关注。

阅读理解能力是日语专业学生的基本功之一。日语专业八级考试的阅读理解只有一篇长文,主要来自日本高中升大学的考试题或辅导题,所选文章题材广泛,与日语专业四级文章相比文字表达更书面语化,内容更为抽象,难度有了很大提高。八级阅读理解考察的不仅是考生的日语语言水平,更重要的是其分析、逻辑推理能力。可以说增强日语和母语的综合知识与素养对提高八级阅读水平至关重要。这就要求广大考生在平时的学习中就要博览群书,不仅要专和精、也要广而杂。古人云:“汝果欲学诗,工夫在诗外”,可谓一语中的。

一篇文章没看懂,很大程度上是一些句子没看懂。句子是表达语义的基本单

位,是阅读的关键。针对八级文章句子结构复杂、内容抽象难懂的基本特点,学会对日语句子的结构进行分析就显得尤为重要。因此我们应该学会从句法的角度对日语的各种句子结构进行分析,准确地理解每个句子的意思。但只这样难免“只见树木,不见森林”,学会从篇章法的角度对句群、段落和文章的逻辑关系和层次结构进行分析也是非常必要的。只有从小至句子的微观和大到文章的宏观两个方面对文章进行把握,才能既见树木又见森林,从根本上提高日语阅读水平。

第 2 課

文章(一) 携帯電話

携帯電話をかけている人の姿を見ると、いじらしい気がしてならない。マナーの悪い傍若無人な連中もいないわけではないが、何かしら必死になって世界とつながろうとしている様子がうかがえるからだ。携帯電話は目の前の空間を変容させる。ごく平凡な日常の空間に奇妙な隙間ができ、異種の会話空間がするりと紛れ込んでくる。そこに織り上げられていくのは、あくまで個々の通話者の生活に固有な、とても繊細な私的領域なのである。

常識にしたがえば、携帯電話は私的な領域を広げるものではない。むしろ、公的な領域を拡大し、世界を覆ってしまうものだというのが普通の見方だろう。もはや外回りの営業マンも、のびのび喫茶店で一服というわけにはいかない。どこにいても上司から電話がかかってくる。下手をするとトイレの中まで仕事を追いかけてくる。携帯電話のユーザー数が急速に伸びているのも、社会の効率化、加速化の現れだ。この常識論に従えば、携帯電話はまさに近代特有の均質空間化を推し進めるもの、ということになる。世界全体を管理されたノッペラボーの空間にしてしまうツール、ということになる。

しかしよく考えると、近代は空間をすべて均質化したわけではない。公的なオフィスと私的なマンションの区分は厳然としてある。正確に言うと、空間の「意味付け」を人間が行える、というのが近代思想なのである。たとえば、昔は怨霊がただよっていた不吉な沼沢地も、近代になると埋め立て工事で便利なオフィス街や住宅地に生まれ変わる。かつて超自然的な神が宿っていた空間を、人間が意味付け操作できるのが近代なのだ。

問題は、この空間の意味付けを誰がやるか、ということである。これまでの中央集権型の工業化社会では、それは政府や大資本など権力者の役目だった。都

市計画などは個々の庶民の手の届く仕事ではない。小さな会社の中でさえ、娯楽室と作業場の区分は、一般従業員ではなく経営者や管理者にゆだねられてきた。

だが、パソコンやインターネットの普及は、誰もが時間空間の壁をこえて高度な情報処理を行う、分権型の情報化社会の到来を予感させる(もちろん、まだそのために解決すべき課題は山積しているが)。サテライト、オフィスや在宅勤務、在宅学習などは、みんなそういう脈絡でとらえなくてはならない。近未来の情報化社会では、一般の個人が、それぞれ自主的に情報を処理し、時間と空間を意味付けていくのだ。

けれども、こういう自由度の増大は、つねにプラスの側面ばかりを持っているわけではない。携帯電話やパソコン通信を駆使して「いつでも、どこでも、だれとでも連絡でき、仕事ができる」ということは、逆にいえば、もはや権力者が上から決定してくれる空間の区分は存在しないということにもなる。つまり情報化社会では、個々人が自分の創意にもとづいて刻々と私的領域を紡ぎだし続ける努力が必要となるのだ。

若者たちはこういう変化を本能的に感じ取っているようだ。電車の中でヘッドホンカセットに聞き入る彼らは、本来は公的なはずの空間内で自分だけの私的領域をつくって、そこにスッポリはまり込む。そして携帯電話の形成する領域はその延長上に位置するのである。

「いつでもどこでも仕事の連絡ができる」「いつでもどこでも仲間とおしゃべりできる」「いつでもどこでも恋人の声が聞ける」——携帯電話が保証するのはそういうことだ。だがそれこそは、自分の知らないところで高速の情報流が渦巻いており、下手をすると自分がのけものにさわれるという、根深い疎外の恐怖の裏返しではないだろうか。

情報化社会においては、会社や市町村や家族といった従来の共同体が徐々に明確な輪郭を失っていく。言いようのない孤独感が鋭く人々の胸を刺すことになるだろう。自分の小さな私的領域を何とかして確保し、そこに聞き慣れた会話の声を呼び込むことで、自分のおぼつかない足元を支えたいという切望が生まれるとしても、いっこうに不思議ではない。その切望とともに、人々は携帯電話を護符のように抱え歩くことになる。

使い方のモードは様々だろう。営業マンは、自宅でも絶えず携帯電話をかけ、すすんで公的領域を自分の全生活まで押しひろげることで、逆に会社とつながった私的領域そのものを構築しようとする。若者たちは、携帯電話を持ち歩き

さえすれば仲間はずれにならないと信じこむ。そして恋人たちは、携帯電話こそが、自分と相手との揺れ動く距離を示すかけがえのない計測器のように思うのではないか……

携帯電話が騒がしい。だがその騒がしさは、つねに一種の寂寥感を帯びている。

文章(二) 旅に出る日

旅に出て未知の風景に接し、感動する前に、「ああ、絵はがきとそっくり」というセリフを口にする人をよく見かける。また、最近のように飛行機利用の旅が盛んになると、若い女性が下界を見ながら、「まあ、地図とそっくりね」と言う歓声をあげる。しかし、考えてみれば、絵はがきも地図も、すべて旅という行為よりずっとあとになってできたものだ。絵はがきや地図の普及が人間の思考を逆行させてしまったこの事実。旅は昔から行われていたはずだ。地図や絵はがきは、今世紀に入って一般に普及したものだ。現代人がこういう錯覚に気づかない限り、人間本来のもつ素朴な感動をもつことはできない。現在の旅は功罪が半ばしている。われわれはその功罪に気づくことがまず大切である。

例えば、人間は飛行機を発明してから百年とは経過していないのに、今や、驚異的な速さのジェット機を考え出し、それが人間を苦しめようと疲労させようとおかまいなしにますますスピードを速めようとつとめている。一昔前は船でインド洋を横断して、はるばると欧州を目指したのに、それが、現在はどうか。あっという間に目的地に着いてしまう。思うに、人々は旅というものへの導入部を持つことが少ない。この導入部が実は旅だったのだが、いまでは、目的地へ着くことだけが旅のように思われてしまった。そして、それが旅だと思い込んでしまう現代人は気の毒だ。乗り物は極めて速くなり、時間の節約といちはやく目的地へ着くことは実現されたが、旅情はそれに比例するとはいえないからだ。

(岡田喜秋「旅に出る日」による)

単語

いじらしい

(形)

惹人怜惜(怜愛)

傍若無人(ぼうじゃくぶじん)	(形动)	旁若无人
何かしら	(副)	不知为什么、不知何故
するり	(副)	滑溜溜
変容(へんよう)する	(名・自他サ)	改变面貌
紛れ込む(まぎれこむ)	(自下一)	混入、误入
のっぺらぼう	(名・形动)	平淡、单调无味、平滑
怨霊(おんりょう)	(名)	冤魂、幽灵
沼沢地(しょうたくち)	(名)	沼泽地
意味付け(いみつけ)	(名)	赋予意义
委ねる(ゆだねる)	(他下一)	委托、交给、献身
脈絡(みやくらく)	(名)	脉络
サテライト・オフィス	(名)	与总公司通讯网络密布的 卫星式小型办公室
紡ぐ(つむぐ)	(他五)	纺、描绘
疎外(そがい)	(名・他サ)	疏远、孤独、异化
聞き入る(ききいる)	(自五)	倾听、专心地听
ヘッドホン	(名)	耳机
スポリ嵌り込む(はまりこむ)	(词组)	恰好嵌入
渦巻く(うずまく)	(自五)	打旋儿、卷起漩涡
除け者(のけもの)	(名)	被排挤出去的人
覚束無い(おぼつかない)	(形)	靠不住、没把握、没希望
切望(せつぼう)	(名・他サ)	渴望、盼望
掛け替えのない(かけがえのない)	(词组)	宝贵的、珍贵的、无法代 替的
(二)		
寂寥感(せきりょうかん)	(名)	寂寥之感
半ば(なかば)	(名・副)	一半、部分
御構い無し(おかまいなし)	(词组)	招待不周、不在乎、不介意
一昔(ひとむかし)	(名)	往昔、过去
導入部(どうにゅうぶ)	(名)	(音乐)序曲、前奏、引子、 (小说)楔子